

ミラノ・コルティナ 2026 冬季オリンピックが閉幕し、日本選手団の活躍は多くの感動と勇気を与えてくれました。画面を通して、選手たちのオリンピックに懸ける思いや日々のひたむきな努力がひしひしと伝わり、まさに感動の連続でした。そして、随所で「TEAM JAPAN」という言葉が聞かれ、チームで戦うことの重要性を改めて感じることができました。

研究もまた、チームで取り組み、議論を重ねながら進めることで、優れた成果が生まれることが多くあります。まさに知識や技術が結集したチーム力と言えるでしょう。

保健医療学雑誌 第 17 巻 1 号には、計 2 編の原著論文を掲載しております。芥川らの原著論文は、最大一步幅を用いた身体機能認識誤差について、高齢者と若年者で比較検討しています。山内らの原著論文は、マーカレスモーションキャプチャを用いた膝関節位置覚評価動作の信頼性と妥当性について、荷重位法と非荷重位法で比較検討しています。ぜひご一読いただければ幸いです。

新年度を迎え、新たな研究に取り組まれる方も多いと思います。得られた研究成果につきましては、ぜひ保健医療学雑誌へご投稿ください。引き続き、本誌が皆さまにとって有益な情報を発信できるよう尽力してまいります。

2026 年 4 月 1 日

保健医療学雑誌（編集委員長）

三谷 保弘（関西福祉科学大学）